

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200088		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームテアフル 笑明かり・咲明かり(笑明かり)		
所在地	愛知県一宮市浅井町尾関字西五輪26		
自己評価作成日	平成28年12月25日	評価結果市町村受理日	平成29年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2392200081-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	平成29年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

献立を一緒に考えスーパーに買い物へ行ったり、遠足・モーニング・ランチ等外出が多くあり気分転換を図っている。季節を感じられるように花を見たり、蒲湯湯やおはぎを作ったり等昔なじみの行事も大切にしている。春祭りや運動会があり、準備から共に行き作り上げている。今年は皆で作品を作りバザーも行った。それ以外にも餅つき・家族会・会議・町内の祭り等で、ご家族や地域の方にもご参加・ご協力頂き交流を図っており、情報共有しながらご本人を支えている。共同生活する事も大切にしながら、個々の想いに寄り添いその人らしくを大事にしている。1人1人の力を活かし、今まで行ってきた事が継続出来るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月ミーティングで理念を唱和し確認している「生きているって素敵」の理念の下、個々の意見や想いを汲み取り、そのらしく楽しく生活が出来るように努めている。理念が反映されているかケアの中で確認している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩・外出時等に積極的な挨拶や、春祭り・運動会等行事への参加や町内のお祭りの休憩所として利用等地域との関係を築いている。民謡・落語等ボランティアの訪問や週1回共有スペースでサロンを開いている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行事・会議等地域の方に参加頂きご家族やご利用者の意見・事業所の取り組み紹介したり、外出先で交流し理解して頂けるように努めている。ご家族が勤めている喫茶店に行ったり、実習生受け入れ時も伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	年に6回行事を含み行っている。活動を報告し、ご家族・ご本人の想いをお聴きしたり、地域の行事内容の情報・事業所へのご意見等を町内や民生委員・役所から頂きサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	会議等に参加して頂き、意見交換を行なっている。日頃の連絡は主に管理者やケアマネージャーが行い、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修等で学んでいる。正しく理解し、身体拘束の無いケアを目指している。玄関の鍵は交通量が多い為施錠しているが「外へ行きたい」「車が見たい」等要望時は開錠し、館内はどこでも自由に出来る環境にある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修等で学び理解に努めている。毎月のミーティング時、不適切なケアや異常がないか・入浴時傷の有無・表情の変化・ストレス度等振り返りや観察し、情報共有をして虐待に繋がる小さな芽を摘む努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在利用している人はいない。また、日常生活自立支援事業や成年後見制度・法的な知識について理解している人は少ない。今後学ぶ機会を持つ必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、管理者が疑問点等を伺い1つずつ説明し理解を求めている。解約時、ご本人・ご家族の想いを聴きながら話し合いをしている。改定時、家族会等で説明し日頃からご家族とのコミュニケーションを大切にしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	話しやすい雰囲気作りをし、ご家族・ご利用者の意見等を伺い反映に努めている。連絡帳や申し送りで職員間の情報共有をしている。お便りやブログも開設しホームを知って頂けるように取り組んでいる		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に2回の個人面談・各ミーティング等意見が言える場がある。言えない人には文書で聴いている。ケアや行事内容等職員のアイデアが沢山反映されている。人事異動や退居時等管理者と話し合いを重ねて決めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	面談で自己を振り返り、状態把握に努め目標を決めている。定期的に目標の振り返り・行ってみたい事等行い、向上心を持って働けるようにしている。又ユニットで3か月に1回、全体で1年に1回食事会がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	クラス分けをして内部研修をしている。外部研修は年1回事業所負担で行け、力量に合わせ勧められる事がある。研修後は紙面で報告したり、ユニット内で発表し知識向上を図っている。資格取得を個々に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同グループ施設内、研修・行事等で交流する場があり、質の向上に努めている。外部研修や実習生受け入れ等交流はあるが継続してしない。交流を深めていきたい。尾張地区のネットワークがあるが参加できていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	個別でゆっくり話をして想いが言える環境作りをしている。笑顔で接し言動等から想いを汲み取るように努め、早期に信頼関係が築けるようにしている。他者等の仲介にも入り安心できるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時、管理者が不安・要望等に耳を傾けている。日頃から笑顔で挨拶し話しやすい雰囲気を作心がけ、想いを汲み取りながら要望等聴けるように関係づくりに努めている。職員間で情報共有し安心できるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用前の面会等で、その時必要なサービスを見極め説明をしている。ご家族・ご本人の想いや希望を含め管理者・リーダー等で話し合い、他のサービスでも、今その人が必要な支援を見極め提供が出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活のあらゆる行動を共に行い支え合う関係を築いている。出来る事を共に考え、自分で行える環境作りをしている。家族のような関係づくりに努め、一緒に楽しみながらより良い暮らしが出来るようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時等少しの変化を含め報告すると共に、ご本人をどう支援するか話が出来るように努めている。共に支えるという事を常に考えている。行事・外出等ご家族と共にゆっくりと過ごす時間がある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの店・病院・美容室等にご家族と共に行ったり、ご友人等と電話・外出・外泊をしている。気軽に立ち寄れるようにしている。会話の中から得た馴染みの店等に行く事もあり関係が途切れないようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	関係を把握し席を決めている。全体が見渡せる作りで、食事時等職員も座り話をしている。家事等の協力やソファにて笑顔で話したり、「大丈夫？」と気遣われる事もあり、支え合う関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、今までの関係性を大切に、ご本人・ご家族が困らないようにいつでも来設出来て、話しやすい環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に“本人はどうか？”と個々の立場に立ち、言動等から要望の把握に努めている。連絡帳・ミーティング等で共有し実践出来るようにしている。必要時、介護計画に入れて希望に沿った暮らしができるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートやご本人・ご家族の会話から把握に努めている。今までの生活を大切に継続出来る事は行っている。花を活ける・日記を書く等、その人らしい環境作りを心がけ、生活が楽しめるように支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	食事・排泄チェックや言動・バイタル等から、日々の変化を見逃さず職員間で共有している。「出来ないと決めつけない」を目標にして、個々に合わせた過ごし方が出来るようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月1回のミーティングで介護計画に沿って、ご本人・ご家族の意見を反映し、見直し・変更してより良い生活が過ごせるように努めている。状態変化や意見等出た時は、その都度ご家族等と相談しながら変更している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に介護計画の内容を記載して実践したらチェックをしている。様子・変化・気づき・本人の言葉・言動等5W1Hで解り易く記載している。読む事を心がけ、情報共有・実践し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状態の変化時等想いを伺っている。管理者・職員で話し合いをしながら、柔軟な対応が出来るように心がけている。「～しなくては」と思いすぎないように、個々に合わせたサービス提供が出来るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	スーパー・喫茶店等利用し関係作りをしている。ご本人馴染みの病院・美容室等にご家族や職員と共に行く事がある。俳句コンテストに応募した。個々の地域資源を把握し豊かな暮らしを楽しく出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人・ご家族の希望でかかりつけ医を決めており4名が外にかかりつけ医がいる。往診医は月1回。急な診察も希望を伺い受診している。病院と文章・電話等で連携をして適切な診察が受けられるように努めている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月に3回看護師訪問があり、体調不良・気づき等細かく報告・相談し指示を仰いでいる。いつでも連絡出来る体制にあり、看護・介護・医療が情報共有し適切なケアが受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供書や電話で情報提供が出来るようにしている。定期的に見舞いに行きご本人が安心出来ると共に、関係者と情報交換をして退院後の生活がスムーズになるようにしている。退院時ご指導を頂き、ご本人・ご家族・事業所・病院で話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時、管理者から説明している。変化時等、ご家族と話し合いの場を設け、今後の経過等を説明している。事業所の出来る事・出来ない事を説明しながら、ご本人にとってよりよい生活になるように、ご家族・管理者・職員間で情報共有し方針を決めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	内部研修で手当等方法を学び実践に努めているが、実際経験が少ない為不安がある。いつ起きても対応出来るように、定期的に訓練を行う必要がある。急変時等のマニュアルや連絡体制は目につく所にある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	3か月に1度様々な想定から避難訓練を行っている。参加出来なかった人も周知が出来るように努めている。全体や地域を巻き込んだ訓練が出来ていないので、協力を得られるように働きかけが必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として敬意を払い、言葉遣いや態度に配慮し、馴れ合いにならないようにしている。職員間で指摘している。トイレはさりげなく・自室のノック・大きな声で呼ばない等常にご本人の立場を考えた対応に努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	おやつ飲み物やお菓子・外食時のメニュー・誕生日プレゼントや祝い方・外出先等、必ずご本人の想いを聴きながら決定出来る様になっている。表現が苦手な方も初めから決めず引き出せるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	好きな時に寝る・テレビを見る・パズル・折り紙・塗り絵・館内を散歩する等個々のペースを大切にしている。常に“本人がどうしたいのか？”と考え、希望に沿った過ごし方が出来る様に柔軟な対応を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服装・髪の流れ・髭・爪に気を配り、手入れをしている。タイミングを考え美容室へ行ったり、服を選んだり、希望時・外出時化粧やネイルをしている。好みや個性を尊重したその人らしいオシャレが出来る様になっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好きな物等伺いながら、献立作りから片付けまで共に行っている。納豆嫌いな方は煮豆・朝パンがいい方にはパン等、好き嫌いの把握に努め提供している。季節感・行事も大切に食事が楽しみとなるようにしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1汁3菜の献立で食事・水分量を毎日チェックし把握に努めている。無理に食べる・水分少ない等、個々に合わせ量の調整や声掛けし、バランスを考えている。お茶を目に届く所に置き自ら飲めるようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	うがいのみ・何度も磨かれる方等、個々に合わせて行っている。磨き残しの確認をしている。義歯の方は週1回ポリレットを行い、希望者はご家族と歯医者へ行かれたり、訪問歯科を利用し掃除や指導を受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄表を利用し個々のパターン把握に努め、トイレでの排泄が出来る様にしている。声掛けに十分注意している。表現が苦手な方は動きに注目している。トイレに張り紙をして場所を示して迷わないようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	1日にシリアル入りヨーグルトか乳酸菌・バナナ・フルーツ・麦ご飯・食物繊維多く等工夫し提供している。トイレにゆっくり座る・整腸剤の調整・お腹張りがある時ホットミルクを勧めお腹擦る・肛門体操行う等個々の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	「ぬるま湯がいい」「今は入りたくない」等要望に沿っており、日時等気にせず行っている。季節を感じられるよう菖蒲湯・ゆず湯・入浴剤を使用。音楽をかけ談笑しながらゆったりと寛げて楽しめるように支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	好きな時に好きな場所で休める環境作りをしている。無理なく居室で休んで頂くように声掛けをしている。有線や音に配慮している。昼寝時間・就寝時間・室温・照明等個々に合わせ安心して眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の薬を把握し、効能や副作用等の理解に努めている。変更時は連絡帳・申し送りし情報共有し、どんな変化があるのか観察している。服薬時名前・日時を復唱し飲み込みまで確認して誤薬がないようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	栄養ドリンクを飲む・晩酌・お菓子を食べる・パズル・将棋・花・写経等、個々の楽しみができるようにしている。掲示物の作成・行事の参加・家事等、張り合いを持つと共に、本人の楽しみ事を知る事に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物・散歩・ランチ・モーニング・遠足等あり、要望を伺い季節感を大切に外出している。ご友人・ご家族とも外出される。柔軟に出かける事を心がけ「畑が見たい」「珈琲飲みたい」等希望で個別外出している。資金のかかる事等ご家族に相談しながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	支払い・出納帳記入時等職員と行っている。ご自分の財布を持ちお店で支払う事もあり、その方の力を見ている。個人所有の方はみえず、職員側で管理している。お金に触る機会を増やし個々に応じて支援をしていきたい		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	要望時、自由に電話・手紙等出来るように努めている。電話は時間帯に配慮し話しやすい環境作りをしている。職員管理で携帯電話を持っている方もいる。行事の招待状等ご本人が作成しやり取りの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	活動に合わせ音楽を流したり、常に清潔に心がけどこも温度差が無いようにしている。木目を基調とした造りで、廊下やフロアには季節感を取り入れた飾り・写真・壁画・折り紙・書道作品等あり、居心地良く過ごせるようにしている。それを見て話している姿がある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアに食卓スペースとソファとテレビの空間があり、どこでも寛げるようになっている。気の合う方と話しをする・居眠り・読書・家事等思い思いに過ごせるように工夫している。共有スペース・他ユニットにも自由に行き来できる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス・布団・三面鏡・仏壇・ご家族写真等、個々に馴染みの物を持参している。作品を飾っている方もいて、個々の空間を大切にしている。居心地良く安全に過ごせるように、ご家族・ご本人と相談しながら行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室に名札・椅子に名前シール・トイレは名前を大きく扉に記載等し、混乱防止をしている。日々個々の解る事の把握に努め対応している。館内はバリアフリーで至る所に手すりがあり、自立した生活が送れるようにしている		